

連帯！第91回メーデー

～ 労働者の連帯と団結でこの困難を乗り越ろう ～



連合大分に結集する組合員とその家族の皆さん、そして、大分県下のすべての働く皆さん、それぞれの持ち場・立場における取り組み、大変お疲れ様です。

本日は、労働者の祭典であります第91回メーデー大分県中央大会と県内6会場における地区メーデーを開催する予定となっていました。

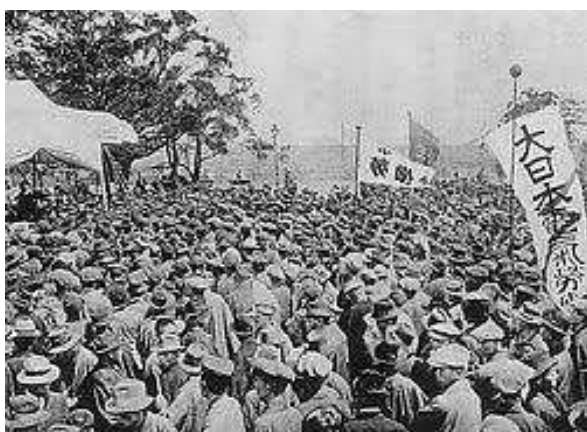
しかし、ご案内の通り、今、日本国内は、「新型コロナウイルス」の感染拡大が続いています。本来であれば、働く者たちとその家族が一堂に会して、行うところではございますが、今回はそのような状況にございません。

したがって、第91回メーデー大分県中央大会は、ウェブ開催となりました。これもまた、歴史の1ページとして残していきたいと思えます。

はじめに、「新型コロナウイルス感染」についてですが全国的に「感染者の拡大」は続いています。

そのような中、「見えない敵」、「見えない感染リスク」と日々闘いながら、ご奮闘されている医療関係者の方々をはじめ、私たちにこのような状況の中でも、当たり前な日常を保証しようと「インフラ」「公益」「物流」「生活必需品の供給」などの職場で働き続ける方々に心から敬意と感謝を申し上げます。

ともにこの闘いを乗り越えるために、諸課題の解決を図っていききたいと思います。



さて、日本における第1回メーデーは、1920年5月2日に東京上野公園で行われました。今年は、その年から数えて100年目の節目を迎えました。

この間、日本の労働者は、幾多の試練を乗り越えながら、

- ◎労働者の地位や労働条件の向上と権利の拡大
- ◎人権と労働基本権の確立
- ◎民主主義の発展
- ◎恒久平和の希求

に深く貢献し、その実現に向けて大きな役割を果たしてきました。

現役の私たちは、先人たちの残した成果と課題をしっかりと受け止め、今を実践し、後に続く後輩たちに運動を継承していききたいと思います。

メーデーは100年の節目を迎えましたが、開催回数は91回です。

なぜでしょうか。それは戦争や弾圧によって、国や人々が分断され、開催できなかった年があったということです。

メーデーの歴史は、「分断」を排除し、働く者の「連帯」を求めた歴史でもあると言えます。

東西ドイツを分断したベルリンの壁が崩壊して31年が経ちました。ドイツ国民は、「2つの壁」、1つは、「物理的な壁」、もう1つは、一人ひとりが持つ「心の壁」、この2つの「壁」を乗り越えたと言われてい

ます。そこには、ドイツ国民一人ひとりに、「分断ではなく調和・共生」という強い意志と行動があったことは、言うに及びません。

今、「新型コロナウイルス感染症」もまた、私たちに「2つの問い」を発しているように思います。

1つは「ウイルスを封じ込めるために、一人ひとりが、今までの社会行動を変化させることができるか。」

もう1つは、「ウイルスを乗り越えるために、一人ひとりがつながり合い、連帯の輪を広げることができるか。」 ということです。

私たち労働組合は、それぞれの組織の組織力をテコに、これまで培ってきた「助け合い・支え合い・お互い様」という「心」の価値観を持って、この難問に立ち向かい、納得のいく答えを導き出したいと思います。

そして、働く者、生活者本位の政策の実現に向けて、その先陣を切らなければなりません。その決意を新たにしたいと思います。

結びになりますが、私たちがめざす社会は、「働くことを軸とする安心社会」です。

年齢や性別、障がいの有無、国籍などにかかわらず多様性を受け入れ、互いに認め支え合い、「誰一人取り残されない」社会の実現をめざして、今後も全力で運動を進めていきます。

ともにがんばりましょう！

2020年4月29日

第91回メーデー大分県中央大会

実行委員長 佐藤 寛人